

## 1. 弾道ミサイルが発射された際の対応

### 1. 日頃から留意すべき事項

- ・児童生徒の避難誘導等の安全確保について、全教職員で共通理解をする。
- ・Jアラートが発信された場合の対応や緊急時の連絡方法について、児童生徒や保護者への周知を徹底しておく。
- ・危機管理マニュアルの点検や見直しを行う。
- ・様々な場面を想定し、地域や各学校園の実情に応じた具体的な対応策について検討する。

### 2. 緊急対応のポイント

#### ＜具体的事例＞

Jアラートや緊急速報メール等により、弾道ミサイルが日本に向けて発射されたとの緊急情報が発信されたので児童生徒の安全確保に向けた対応が生じた。

#### 《児童生徒が在校時の対応》

○管理職はJアラートによる緊急情報の内容を確認し、安全確保について校内放送で指示する。

##### 【屋内にいる場合】

- ・時間があれば、窓のない部屋があれば移動する。
- ・窓があれば、窓やカーテンを閉め、できるだけ窓から離れ、床に伏せて頭部を守る。

##### 【屋外にいる場合】

- ・近くの建物に速やかに避難させる。
- ・建物内に避難したら、できるだけ窓から離れ、床に伏せて頭部を守る。
- ・近くに建物への避難が難しい場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。

○管理職はテレビ、インターネット等で正確に情報を収集し、追加情報が入るまで避難行動の継続を指示する。

○教職員は安全確保の行動後、児童生徒のけがの状況を確認し管理職に報告する。

#### 《児童生徒が登下校時の対応》

○管理職はJアラートによる緊急情報の内容を確認し、教職員の対応について指示する。

○Jアラートが発信されたら、近くに建物に入る。建物がなければ物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守る。（児童生徒には、対応について必ず事前に周知徹底しておく。）

○保護者と連絡を取り、児童生徒の安否等を確認する。

##### 【スクールバスの場合】

○Jアラートが発信された場合のバス対応や学校との連絡方法について事前にバス委託業者と調整しておく。

○バスを止めて近くの建物に避難させる。周囲に避難できる場所がない場合は、バスから離れて地面に伏せて頭部を守る。バスから出ると危険な場合は、バスを安全な場所に止める。

#### 《児童生徒が校外での課外活動中の対応》

○携帯電話等を携行するなど、情報収集の手段を確保しておく。

○引率教職員は、Jアラートによる緊急情報の内容を確認し、安全確保の方法を指示する。

○児童生徒のけがの状況や安否を確認し、管理職に報告する。

#### 《児童生徒が自宅にいる時の対応》

- 登校前や下校後で自宅にいる場合は、安全確認が取れるまで待機し、身の安全を確保する。
- 早朝にＪアラートが発信された場合の登校時間の変更や臨時休業、安否確認等の連絡方法を周知しておく。

#### 《ミサイルが着弾した時の対応》

- 屋外にいる場合は、口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。
- 屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。
- 弾頭の種類に応じて被害の様相や対応が異なるため、テレビ・ラジオ・インターネット等を通して、情報収集に努めるとともに、行政からの指示があればそれに従い、落ち着いて行動する。

### 3. 事後の対応

- 児童生徒の健康状態を確認し、安全が確保できていれば、周りにけがをしていたり、心理的に動揺している児童生徒がいないかを確認し、必要があれば別室に移動させる。
- 人的被害が発生した場合は、保護者ならびに警察や消防に連絡する。
- 不審な物を発見したら、決して近寄らず警察や消防等に連絡する。